

シニア男性コーラスユニット「カンプレ45」

青春の曲、共に歌おう

県内で活動するシニア男性4人組のコーラスユニット「カンプレ45」が24日、秋田市文化会館小ホールで「『絆』のコンサート～みんなで歌おう県民歌」を開く。「上を向いて歩こう」「あの素晴らしい愛をもう一度」など、1960～70年代の歌謡曲を中心に20曲ほど披露する。観客も一緒に歌える「歌声喫茶」の形式を取っており、リーダーの佐々木昌良さん(68)は「青春を彩った曲を合唱しながら、楽しい時間を共有したい」と意気込む。



コンサートに向け、練習するカンプレ45のメンバー＝左から佐々木淳一さん、小坂さん、佐々木昌良さん、渡邊さん。奥がマネジャー役の宇佐美さん

「いやあ、立っているだけでくたびれるよ」「おめえ見た目は老けたけど、歌声は若いままだなあ」。秋田市の中通総合病院にほど近い「あかね調剤薬局」。その2階にあるフリースペースがカンプレ45の練習場だ。ざつくばらんに言葉を交わせるのは気心が知れた仲間だからこそ。メンバー全員が同世代の秋田高校OBで、ユニット名は卒業年の昭和45(1970)年にちなんでいる。昌良さんは高校時代、同校の軽音楽同好会長だった。2016年の定年退職を機に「もう一度音楽をやろう」とかつての級友に呼び掛けた。現在



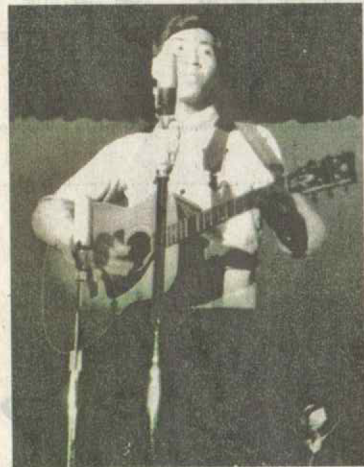
タキシードに身を包み、伸びやかに歌うメンバー＝2018年10月、秋田市中通のアトリオン

歌謡曲など20曲披露

24日 秋田市文化会館

はバリトン担当の昌良さんを筆頭に、小坂信男さん(テノール)、渡邊昭夫さん(バス)、佐々木淳一さん(テノール)、マネジャー役を担う宇佐美均さんの5人で活動している。

観客の笑顔が活動の原動力だ。17年2月のデビュー以来、県内の老人福祉施設への慰問コンサートを中心に約50公演をこなしてきた。会場では演奏曲の歌詞を配り、「一緒に歌いましょう」と促す。ヒット歌謡をみんなです。口ずさみ、会場が一体感に包まれるのが何よりの喜び。「曲に聴き入るのもいいけど、みんなでハーモニーを奏でるのも音楽の大きな楽しみだ」と昌良さんは言う。



高校時代にバンド活動していた佐々木昌良さん＝1969年ごろ

特に思い入れの深い曲目が秋田県民歌だ。日本三大県民歌とも称されるが「素晴らしい歌なのに、みんなで歌う機会はそれほどない気がする」とメンバーたちは話す。コンサートの終盤には必ず県民歌を歌い、その魅力が伝わるよう努めている。24日のコンサートは活動3周年の節目となる。メンバーは「まだまだこれから。後期高齢者(75歳以上)になっても、立つて歌い続けるのが目標だ」と声をそろえる。でも、体のあちこちにはたがが出てきたなあ」「なあと、下(1階)が薬局だから心配いらね」。そんな会話を交わし、笑顔を絶やさず練習に励んでいる。昌良さんは「やりがいを持って仲間と音楽に取り組めるのは幸せだ」と語った。

(佐藤悠太)